

日蓮大聖人御書全集

いんとくようほうごしよ

陰徳陽報御書

新版
1612
ゝ
1613

いんとくようほうごしよ

陰徳陽報御書

こうあん

ねん

がつ

にち

さい

しじようきんご

弘安 2 年 ('79)

4 月 23 日

58 歳

四条金吾

ひと

ふこう

恐

そうろう

殿

なによりも人には不孝がおそろしきことに候ぞ。との

兄

弟

ほけきよう

敵

のあに・おとは、われと法華経のかたきになりて、との

離

ふこう

者

身

咎

をはなれぬれば、かれこそ不孝のもの。とのみにはとがな

女

類

育

たま

いちじよう

し。おうなるいどもこそ、とののはぐくみ給わずば、一定

ふこう

たま

覚

そうろう

しよりよう

広

不孝にならせ給わんずらんとおぼえ候。所領もひろくな

そうら

わ

領

くだ

いっしん過

りて候わば、我がりようへも下しなんどして、一身すぐる

育

たま

そうら

かこ

ふぼさだ

ほどはぐくませ給え。さだにも候わば、過去の父母定めて

守 たも

にちれん

祈 誓

叶 そうろう

まぼり給うべし。日蓮がきせいも、いよいよかない候べ

悪

聞

し。いかにわるくとも、きかぬようにておわすべし。

見 そうろう

もう

振

舞

たも

このことをみ候に、申すようにだにもふれまわせ給う

しよりよう

重

ひと

覚

出

ならば、なおなおも所領もかさなり、人おぼえもいできた

そうろう

そうろう

前

々

もう

そうら

り候べしとおぼえ候。さきざき申し候いしように、

いんとく

ようほう

もう

みなひと

しゅ

訴

しゅ

「陰徳あれば陽報あり」と申して、皆人は主にうつたえ、主

思

和

殿

しょうじき

こころ

しゅ

もいかんぞおぼせしかども、わどのの正直の心に主の

べしよう

助

こころ

強

盛

後生をたすけたてまつらんとおもう心ごうじようにして、

数 年 過

利 生

与

たも

すねんをすぐれば、かかるりしようにもあずからせ給うぞ

かし。これは物の^{もの}はしなり、大果報はまた来る^{きた}べしとおぼし^思めせ。

また、この法門の一門、いかなる本意^{ほんい}なきことありとも、

見聞

言

睦

たま

おとな

祈

みずきかずいわずしてむつばせ給え。大人にいのりなしま

そうろう

かみ

もう

わたくし

いらせ候べし。上に申すことは私のことにはあらず。

げてんさんぜん

ないてんごせん

かんじん

こころ

抜

書

そうろう

外典三千・内典五千の肝心の心をぬきてかきて候。あな

かしこ、あなかしこ。恐々謹言。

きようききようきんげん

うづきにじゅうさんにち

卯月二十三日

にちれん

かおう

日蓮 花押

ごへんじ

御返事